

日本橋駅(地下鉄堺筋線・千日前線)④

宗右衛門町の華! 南地大和屋跡へ

近鉄日本橋駅(近鉄難波線)

「大阪あそびマップ集」
その3 No.126

地下鉄日本橋駅

①天牛書店跡

創業者・天牛新一郎が二ツ井戸で古本屋を開き、大正初期に日本橋南詰に大型の古本屋を構えました。それまでの古本屋は客の顔を見て値段を決めていたのを撤廃して、良心的な値札をつけて販売。これが大成功して、折口信夫、武田麟太郎、長谷川幸延、織田作之助らが通いつめて「大阪古本大学」と呼ばれました。昭和20年(1945)の大阪大空襲で焼失。現在は江坂に本店を移転し、天神橋筋商店街に支店があります。

②日本橋

東京の日本橋は「にほんばし」ですが、大阪の日本橋は「にっぽんばし」と読みます。元和5年(1619)に幕府によって架けられ、江戸の日本橋と同じく公儀橋でした。江戸時代の大坂の橋は、ほとんどが町橋(町民が自分たちで架橋して維持運営していた)であったので、公儀橋は非常にめずらしいといえます。

③道頓堀川

安井道頓(成安道頓)、安井道卜らが私財を投じて運河開削に着工し、元和元年(1615)ごろに完成したといえます。日本橋北詰東に安井道頓・道卜紀功碑があります。



④食満南北句碑

食満南北(1880~1957)は堺の裕福な酒造家の息子で、幼少のころから芝居や落語など芸道に精通していました。明治39年(1906)、3代目片岡我當に招かれて松嶋屋の座付き作者に。明治42年(1909)からは初代中村鴈治郎の招きで松竹に所属。鴈治郎の座付き作者として数多くの戯曲、随筆、評論を書き、上方劇壇の重鎮として君臨しました。句碑は「盛り場をむかしに戻すはしひとつ」。南北は毎日毎晩この橋を渡って芝居に通ったといえます。



⑤南地大和屋跡

明治10年(1877)、初代阪口うしが置屋(芸妓扱所)「大和屋」を開業。明治43年(1910)には「大和屋芸妓養成所」(芸者学校)を創立して、数多くの名妓を育て上げました(その成功を見て、のちに阪急電鉄社長の小林一三が宝塚少女歌劇を創立しています)。大正13年(1924)には3代目阪口祐三郎が川上音二郎の妻・貞奴が踊っていた「へらへら」をアレンジした「へらへら踊り」を考案。華やかで愛嬌のある座敷芸は一躍、大和屋名物となりました。上方座敷文化の殿堂として大阪の財界人や文化人に愛されましたが、平成15年(2003)に惜しまれつつ閉店しました。

⑥太左衛門橋

橋名は橋の東南角で歌舞伎小屋を開いた興行師・大坂太左衛門に由来するといえます。宗右衛門町、道頓堀の町衆によって維持されてきた町橋です。

地下鉄日本橋駅

